

麻疹(はしか)の流行について(11)

先週に引き続き全国的に報告数は、減少しましたが、患者発生は続いています。横浜市でも、報告患者数は減少傾向です。学校等からの発生報告も減少しています。

< 感染症発生動向調査による患者報告数 >

麻疹(成人麻疹を除く)の流行状況については、全国で約3000か所、横浜市では84か所の小児科診療を行っている指定届出医療機関(小児科定点)からの報告により、把握しています。

成人麻疹(15歳以上)の流行状況については、全国で約450か所、横浜市では3か所の基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)からの報告により把握しています。

小児科定点および基幹定点からの患者報告は、月曜日から日曜日までの1週間ごとに行われており、1週間単位での集計結果を、ホームページ等で、公表しています。

横浜市では、小児科定点からの報告は、

第26週(6/25～7/1) 3人(8歳1人、9歳1人、15～19歳1人)

と、第14週以降、発生が続き、2007年の累計報告数は78と、2006年の年間報告数16の4.9倍になりました。

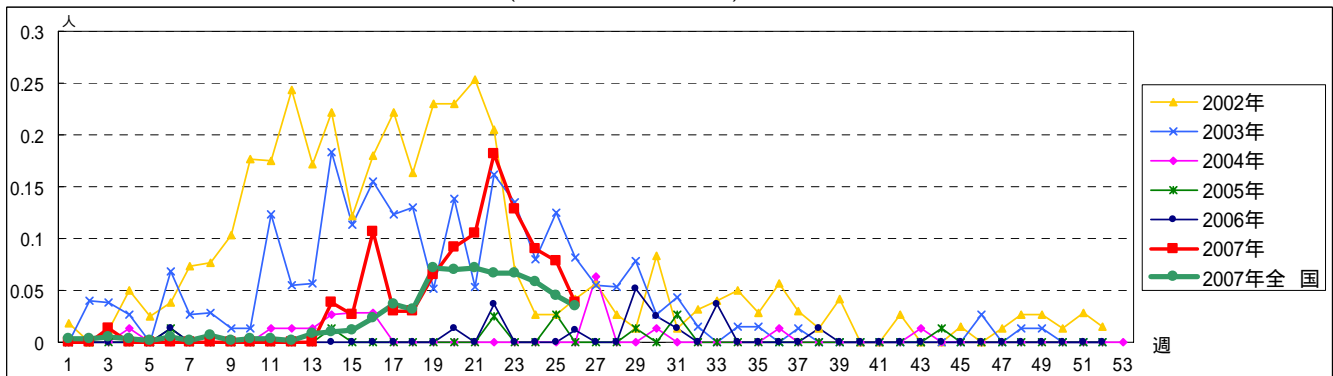
* 15歳以上の患者が、小児科定点を受診する場合もあり、ご報告いただいたものは計上しています。

各区別の情報は「横浜市感染症発生動向調査週報一覧 (横浜市衛生研究所)

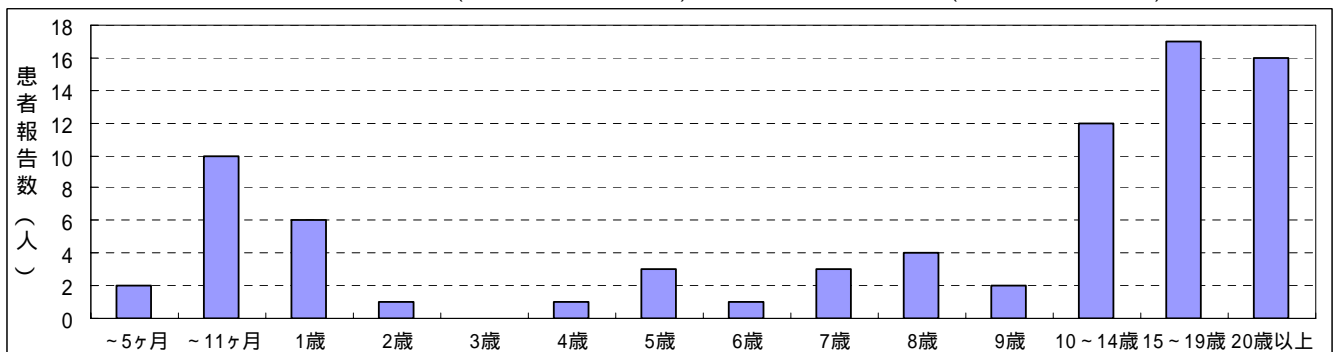
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html) をご覧下さい。

麻疹は、全数報告ではなく、定点からの報告のため、実際の発生数は、もっと多い可能性があります。

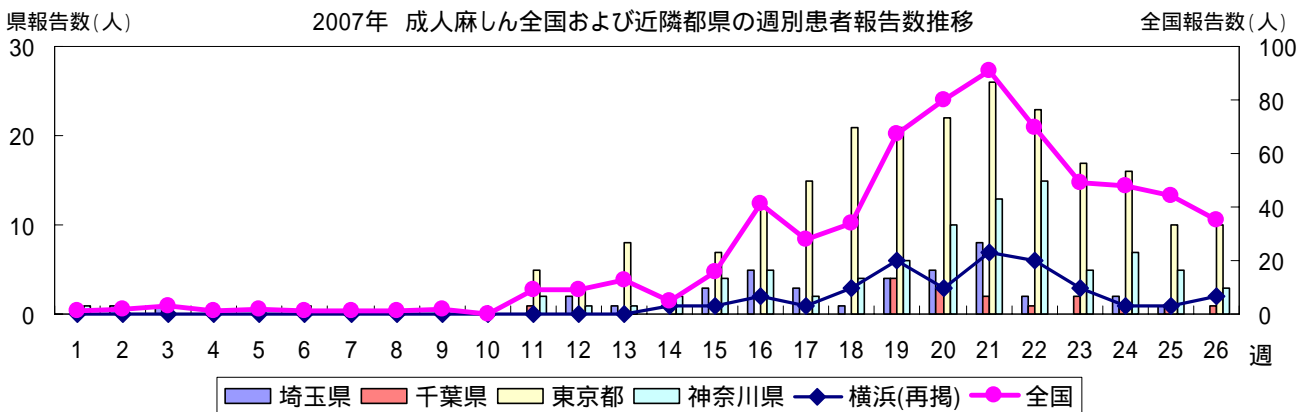
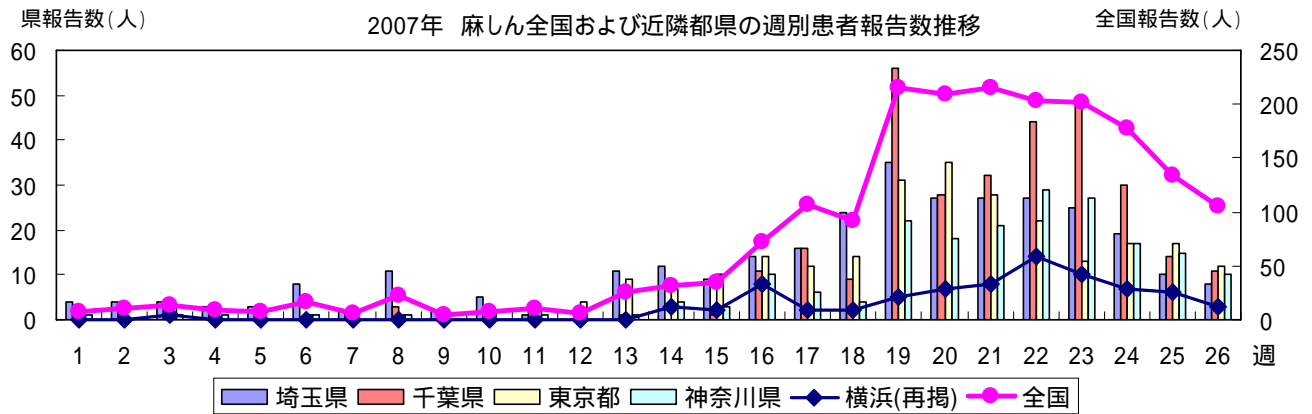
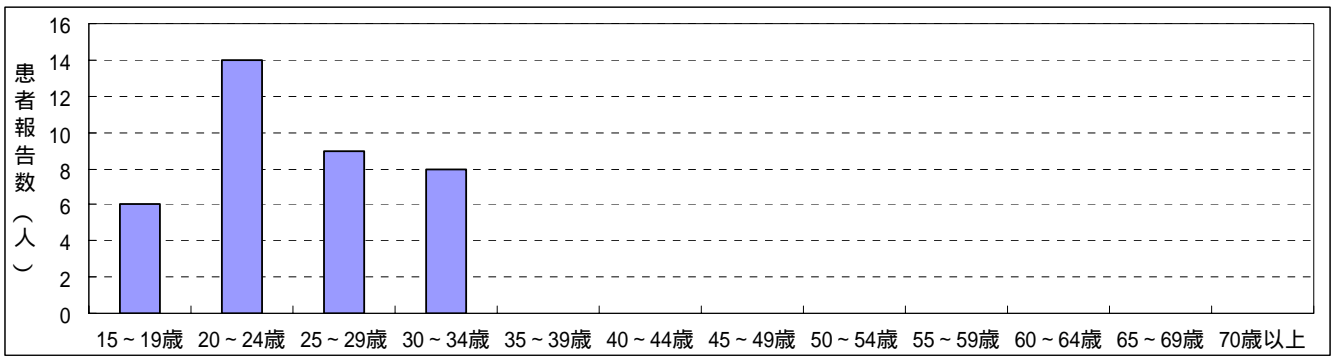
横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)定点あたり患者報告数の推移



横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)年齢別患者報告数 (2007年1～26週)



横浜市における成人麻疹 年齢別患者報告数 (2007年1~26週)



「2007年 全国と関東における週別麻疹および成人麻疹患者報告数」
 (http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/table.pdf)

< 参考資料 >

- ・麻疹(はしか)に関する Q&A (厚生労働省)
 (<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>)
- ・疾患別情報 麻疹 (国立感染症研究所)
 (<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)
- 緊急情報
 関連情報 医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻疹患者発生時の対応マニュアル 等
- ・感染症発生動向調査 週報2007年22週(第22号)「注目すべき感染症」(国立感染症研究所)
 (<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2007/idwr2007-22.pdf>)

2007年 全国と関東における週別麻しん患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	計
全国	8	10	13	9	7	17	6	22	5	8	10	6	25	31	35	72	107	92	215	209	216	203	202	178	134	106	1946
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	2	5	4	4	3	6	1	1	1	2	-	35
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	8	4	6	18	8	2	5	4	3	-	64
群馬県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	2	-	3	1	-	-	-	-	11
埼玉県	4	4	4	3	3	8	2	11	2	5	1	-	11	12	9	14	16	24	35	27	27	27	25	19	10	8	311
千葉県	1	1	3	2	-	-	1	3	-	-	2	-	1	-	1	11	16	9	56	28	32	44	48	30	14	11	314
東京都	-	-	3	-	-	1	-	1	-	2	2	4	9	7	10	14	12	14	31	35	28	22	13	17	17	12	254
神奈川県	1	-	1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	1	4	3	10	6	4	22	18	21	29	27	17	15	10	193
横浜(再掲)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	8	2	2	5	7	8	14	10	7	6	3	78
川崎(再掲)	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	4	2	4	8	3	2	1	4	34
圏域(再掲)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	2	13	9	9	7	14	8	8	3	81

2007年 全国と関東における週別成人麻しん患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	計
全国	1	2	3	1	2	1	1	1	2	-	9	9	13	5	16	41	28	34	67	80	91	70	49	48	44	35	653
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1	2	1	-	-	1	-	-	10
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	1	-	1	-	1	1	-	11
埼玉県	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3	5	3	1	4	5	8	2	-	2	1	-	39
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	3	2	1	2	1	1	1	16
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5	3	8	2	7	12	15	21	21	22	26	23	17	16	10	10	219
神奈川県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	2	4	5	2	4	6	10	13	15	5	7	5	3	86
横浜(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	3	6	3	7	6	3	1	1	2	37
川崎(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	2	3	1	1	-	4	3	4	2	4	4	1	32
圏域(再掲)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	3	3	5	-	2	-	-	17

注)新しいデータについては、遅れて報告のあった分を集計に加えるため、数値がわずかに変動する場合があります。

< かかってしまったら... >

- ・乳幼児については、症状出現時は、母子手帳で予防接種歴を確認し、早めに医療機関に相談しましょう。
- ・10～20代の方は、発熱等出現時は、無理をせず、学校や仕事を休んで、自宅で安静にし、様子を見ましょう。
ワクチン接種あり 修飾麻疹なら、比較的軽い経過ですので、自宅で1週間前後療養しましょう。症状が軽くても、伝染力がありますので、外出の基準については、麻疹に準じましょう。個人差がありますので、症状が強い場合や、登校・出勤の判断については、医療機関等でご相談ください。
- 未接種、未罹患 通常の麻疹の経過をとりますので、医療機関を受診しましょう。症状がつかく、合併症にも注意が必要ですので、一人暮らし等では入院が必要な場合があります。

< 医療機関を受診する時 >

必ず事前に電話で以下の事項を伝えて、受診の仕方(時間の指定、待合室の指定など)を確認しましょう。

- 1 学校、職場、家族等で麻疹の患者が出ている場合は、その詳細
- 2 ご自分の症状と、予防接種歴

何も連絡せずに受診し、黙って、待合室で他の患者さんと一緒に待つ事がないようにしてください。

< 麻疹について >

麻疹は空気感染(飛沫核感染)、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示す疾患で、その感染力は極めて強力で、同じ空間を共有することでも、感染する場合があります。

免疫のない人が感染した場合、ほぼ全員が発病します。

潜伏期間:10日前後(10～12日)。感染性:発疹出現前後4日間。

症状:カタル期(2～4日)は38 前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血、眼脂、羞明など、熱が下降した頃に頬粘膜にコプリック斑が出現。

発疹期(3～4日)は一度下降した発熱が再び高熱となり(39～40)、特有の発疹(小鮮紅色斑が暗紅色丘疹、それらが融合し網目状になる)。

学校保健法での出席停止の基準:解熱後3日を経過するまで。

発病した後の特別な治療法はなく、症状に応じた治療が行われます。

ワクチンによる予防が最も重要です。

< 修飾麻疹について >

不完全な免疫を持ち、感染した場合、典型的でない軽症の麻疹を発症することがあります。

麻疹ワクチン接種後数年を経過し抗体が低下したり、1歳前で母親由来の抗体が残っている場合で、

潜伏期が14～20日、前駆期の症状が軽く、発疹が急速に出現、経過も短く、色素沈着が弱い等、

麻疹と診断するのが難しい場合もありますが、麻疹としての伝染力がありますので、注意が必要です。

< 予防接種について >

2006年4月から、MRワクチンの2回接種が開始され、定期接種対象年齢は第1期:生後12～24か月未満、第2期:小学校入学前年の4/1～3/31です。対象者は、速やかに接種しましょう。

特に、第1期(生後12～24か月未満)のできるだけ早い時期の接種が重要です。

未接種・未罹患には、ワクチン接種が勧められます。

麻疹(はしか)に免疫のない妊婦が感染すると、流産や早産を起こしやすくなるため、未接種・未罹患者は、妊娠前に必ず予防接種を受けましょう。

母子感染した新生児麻疹の1例 (国立感染症情報センター 病原微生物検出情報 <速報記事(ウイルス・リケッチア)> 麻疹ウイルス (<http://idsc.nih.gov/jp/iasr/rapid/pr3282.html>))

< 参考資料 >

・麻疹(はしか)に関する Q&A (厚生労働省)

(<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>)

・麻疹 Q&A (東京都健康安全研究センター)

(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/measles/mashin/mashinqanda.html>)

・疾患別情報 麻疹 (国立感染症研究所)

(<http://idsc.nih.gov/jp/disease/measles/index.html>)

緊急情報

関連情報 医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻疹患者発生時の対応マニュアル 等

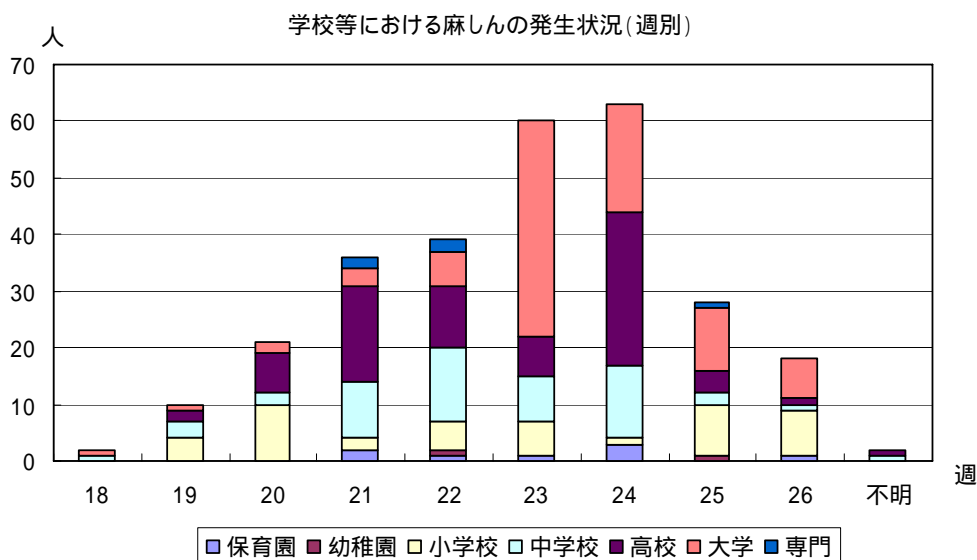
< 学校等における麻疹の発生状況(横浜市) >

2007年7月6日現在、6月28日から発生状況の報告はなく、横浜市内の麻疹患者が発生した施設数は計121か所で、患者数は計279人となっています。施設数では高等学校が38か所(31.4%)、患者数では大学が88人(31.5%)と多くなっています。

10代、20代等の年長者の行動範囲は広く、また感染力は強いものの発熱やカタル症状が主で麻疹のみられないカタル期や、**修飾麻疹**においては、麻疹と自覚しないままに活動を継続してより広範囲に感染を広げてしまう可能性が高いものと考えられます。

詳細は「横浜市内における麻疹の流行に伴う休講等の報告」をご覧ください。

(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measles-kyukou.html)



< 集団感染の発生を防ぐために >

学校、大学等の集団においては、発生に備えて、学生や職員の、麻疹ワクチン接種歴や麻疹既往歴を確認しておきましょう。

未接種者や、未罹患者には、ワクチン接種を勧奨しましょう。

迅速な対応が必要になるので、1例でも発生した場合は、校医や福祉保健センターに相談し、対策を検討しましょう。

患者発生時には、全学生や全職員に毎朝検温を実施してもらい、37.5度以上の場合、外出を控えるように指導しましょう。

感染拡大防止のため、必要に応じて、休校やワクチンの接種を検討しましょう。

潜伏期間も考慮して、休校は、最低10日間を考えましょう。

< 参考資料 >

・こどものための健康情報 (横浜市こども青少年局)

(http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/)

・疾患別情報 麻疹 (国立感染症研究所)

(<http://idsc.nih.gov/jp/disease/measles/index.html>)

緊急情報

関連情報 医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻疹患者発生時の対応マニュアル 等

・「千葉県麻疹対応マニュアル」(千葉県健康福祉部)

(<http://www.phlchiba-ekigaku.org/measles/Manual%20for%20measles%20of%20Chiba%20Prefecture.pdf>)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)

横浜市保健所 健康安全課 健康危機管理担当 (TEL:671-2463)